

## グリホサート剤注入によるニセアカシア駆除技術

### 1 背景・目的

ニセアカシアは北アメリカ原産のマメ科の樹木で、海岸砂地をはじめとするせき悪土壌の緑化に効果を発揮してきた。ところが、繁殖力が旺盛なため海岸マツ林と競合しマツを弱らせるなど、必要とされないところにも繁殖したため、駆除が必要な場合も生じている。そこで、ニセアカシア駆除のためグリホサート樹幹注入方法を検討する。除草剤のグリホサートによる樹幹注入法(農薬登録済み)を使った不要な樹木の防除法は、小笠原諸島において外来樹種のアカギの防除に用いられ、注入木以外を枯らさない、環境中に薬剤を散布しない、薬剤の使用量が少ないなど環境に優しい防除法として認められている。

### 2 技術のポイント

- (1) ニセアカシアは、アカギとは異なり硬質な材であるため注入孔を開けるのが容易でないことから、7 mm以下の細めのドリルを用いる。
- (2) 薬剤の注入量は1本当たり原液 10ml が標準であるが、胸高直径や樹高に応じて増量する。
- (3) 薬剤の作用機構の特性から、木が枯死するまでに長期間を要したが(確認までに266日要したのもあった)、根まで完全に枯れていたため、再生することはない(表1)。
- (4) 枯死までに長期間を要するため処理木の伐採等は、根まで完全に枯死してから行う。



写真 ニセアカシアへの薬剤注入状況

### 3 成果の活用と留意点

- (1) 海岸等で必要とされていないところまで繁殖してしまったニセアカシアについて、根まで枯らすことが可能である。
- (2) ニセアカシアだけでなく他の樹種にも対応が可能であるが、樹種が異なると材質の違いや木の特性などにより注入方法は臨機応変な対応が求められる。

表1 薬剤注入後の経過

10月4日処理

No.	生存	枯死・生存不明	枯死	枯死率%
43日後 (11月16日)	27	0	0	0
185日後 (4月6日)	4	10	13	48
266日後 (6月26日)	0	0	27	100